

## 町政を問う

# 今後の可燃ゴミ処理の方向性は さらなる減量化と焼却施設の集約化

地域整備課長 処理量は



布類の拠点回収

永井 生活ゴミの種類や量が増えている。今後の可燃ゴミ処理の方針や減量化施策、処理量、収集量の推移はどうか。

町長 基礎自治体の中で最も重い基礎インフラ。非常に負担の重い分野。

皆が出すから皆で減らそうと取り組んでいるが、思うに任せない。

環境に配慮したまちづくりについて



永井 欣也

永井 高い目標なのでは。

永井 3割削減はかなり高い目標なのでは。

町長 南部町と2力町で運営している施設に集約、延命化を図るために削減目標だが、ハーダルは高い。コンポスト普及は啓発の一環。一層努めたい。

永井 使用済み紙おむつ燃料化装置を1台増設とのことだが。

町長 南部町にある焼却施設を基幹改良して、今後20年弱運転する基本計画。本町エリアでもバターでゴミ処理を引き受け、施設を集めることだ。

近年、2600t台で推移。家庭ゴミは減少傾向だが、事業系可燃ゴミが増加。H26年度は布類の拠点回収やミックスペースバーの分別などの効果か、約1割減っている。これまでの取り組みが実を結び始めている。

教育長

## ベストな学習環境を構築するうえでの今後の方針は

### 状況の変化と子ども達の学習環境を考え

#### 教育長

#### 状況の変化と子ども達の学習環境を考え

け、福島の清掃センターに燃料化装置を設置し、H40年代の中盤まで、これまでの経過は。

永井 学校統合についてこれまでの経過は。

教育委員長 少子化が進む中で、学校における教育環境の改善が最優先で、統合が必要と一貫して説明したが、統合に至る合意形成ができなかった。

少人数の学習環境が良



使用済紙おむつ燃料化装置

い環境にあり、地域に学校があるのは良いことで、統合は必要ないとして、教育委員会提案と相容れなかつた。

教育長 複式学級の現状や課題、小規模校ならではのメリットなども話合つた。今般、文科省が適正規模に関する手引きを出した。時間をかければ理解は、進むかも。

教育長

複式学級の現状

と焼却施設の集約化に先鞭をつけることについて。

永井 ゴミ処理の方向性と課題解決に至らなかつた。問題は、かつた。

教育長 望ましい教育環境をとの教育論。地域の

町長 家庭ゴミの減量化は関心の高いテーマ。もう少し啓発に努めたいたい。

永井 2つの施設を持つのはコストが高い。事業系ゴミについて、南部町の分を引き受けて、施設を集約する第一歩とした。

教育長 議論の深まりはどうであつたか。



コミュニティスクール準備連絡会

永井 後ほどどのような方針で、今統合に向けて、今後は議論し、得た結論は尊重する。ただ、子どもたちの学習環境を考える上では、ケースバイケースの対応を考える。